けんせつ

東京土建のホームページ　http://www.tokyo-doken.or.jp/

印刷部数11万3600部
（購読料は組合費のなかに含まれています）
（年間購読料　千八百円）
定価　五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03（5332）3971（代表）
FAX03（5332）3972
発行人・編集人
三木　勉

ものづくり・匠の技の祭典

8月8日から10日の3日間、東京国際フォーラムで「ものづくり・匠の技の祭典2018」が開催されます。全建総連東京都連として木工教室を実施します。ご来場ください。入場は無料です。

安全第一の現場環境へ 改善せよ

丸の内3-2計画現場緊急宣伝行動

冷房なし暑さ半端ない

元請・大成へ次々と怒りの声

7月13日、退場する労働者に訴えた最初の宣伝行動

千葉土建の組合員から千葉土建本部に「丸の内3丁目2計画現場（元請・大成建設）で仕事をしているが、現場はとても暑くてがまんできない。熱中症も心配だ」と電話での連絡がありました。東京土建も参加する関東賃対事務局で協議し、現場の安全衛生改善のために直ちに行動しました。

「この現場で働く労働者から熱中症対策が不十分で労災事故の発生すら心配されると告発があった。1年前の8月には、この現場で労働者3人が転落して死亡する重大事故が発生した。酷暑が今後も予想されている。労働者の健康、安全第一の現場環境に改善するよう要求する」と宣伝カーから訴えると、丸の内3―2計画現場通用口から出てくる労働者の中には「もっと言え」と演説者をあおる者、手を振って歓迎の意思を表す者と好意的な反応がいくつも見られました。

7月13日午後5時、関東賃対事務局に結集する東京土建、千葉土建、神奈川土建の仲間は、緊急現場宣伝行動を行ない、退所する労働者に塩アメを配布しながら、労働者に熱中症アンケートを実施しました。50歳代後半の労働者はアンケートの協力を求めると、「朝礼は9階と地下3階に集められて会場はギューギュー詰め。暑くて死にそうなのに、監督が話しているのは『熱中症対策』。まるで落語だよ」と自嘲気味に現場への不満を話していました。また「休憩所にクーラーがない。休憩所以外で休んでいると写真を撮られ、ペナルティーを課される」などの発言で現場の異常な暑さと対策の無さが浮き彫りになりました。

この行動を行なう前の昼間には、関東賃対事務局のメンバーが元請の大成建設、東京労働局、中央監督署へ直ちに現場の労働環境を改善するように申し入れを行ないました。

パワハラも横行 過酷な現場支配

現場労働者から怒りの告発はこの日にとどまりません。

東京都連には次々とファックスが送られ、東京土建HPにもメールが寄せられました。休憩所にクーラーや冷水器がないこと、水分を取ろうにも自販機の数が少ないことなどの他、「大成の事務所にだけはエアコンがついている」「規則違反をした労働者に注意するだけでなく、写真を撮り、2000人近い労働者の前で公開され、さらし者にする」「監督によるあからさまなパワハラをどうにかしてほしい。脅迫されている設備業者を見た」等々、元請・大成建設の労働者を人間扱いしない過酷な現場支配ぶりが、大成社員の実名入りのものも含めて寄せられました。

3連休明けの7月17日にも夕方宣伝を行なうと、再び労働者から歓声が上がりました。

現場では変化も見られます。「7月19日にはかき氷が配られた」「地下1階にあった劣悪なトイレが撤去になり、1階に新設された」という情報がありました。

聞き取りする松本副委員長（中央）

女性の考え分かって

全建総連が女性技能者交流

ティーブレークでなごやかに交流

7月24日、大塚にあるホテルベルクラシック東京で、全国建設労働組合総連合（以下全建総連）主催の女性技能者交流会が開催され、11県連から19人の女性建設技能者（建築士や事務職は除く）が集まりました。

開会あいさつの中で森田副委員長は、「女性技能者の働き方や現場就労の課題を明らかにし、女性技能者の育成を強化することは、今後の建設業の持続的発展に不可欠」と、全建総連としての初めての取り組みの意義を述べました。

はじめに、女性技能者からの報告として、大工歴14年の菅野りささん（東京都連）から話がありました。大田区で子育てをしながら大工をしているという菅野さんは、高校卒業は調理師学校に行きパティシエに。その後、転職して父の工務店で働きだしたとのこと。自分が作ったお菓子は食べてなくなってしまうが、建てた家はこの世に残るので素敵だなぁと、語ってくれました。

東京土建からは、塗装歴23年の松本晃子さん（多摩・稲城）と、目黒の現場から駆け付け、会が終わればまた戻るという経験20年の溶接・鍛冶工の横島敬子さん（江戸川）の2人が参加しました。

自己紹介の後は4つの班に分かれてのグループトーク。その後は第2部のティーブレーク交流会に移りました。

「女性の考え、女性に対しての認識を男性に分かってほしい」「施主さんが女性だと話しやすい」「子どもの迎えなどの急な事情があるので、日々の職場での信頼関係に注意している」などの意見が出され、吉岡副委員長のあいさつで閉会となりました。

朝やけ

■先日、ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）国際運営委員の川崎哲さんの話を聞く機会があった。川崎さんは、核兵器禁止条約に反対する考えを批判する。日米安保条約があるから条約に署名できないとする考えには、21年前、地雷禁止条約に署名して米国に通告した事実を例に、日米安保条約があっても核兵器禁止に進めることを明らかにした。「核の傘」で守られているという考えには、米国による「核の傘」は危険な幻想で、実態は核兵器の使用を米国にお願いするという馬鹿げた考えであることを強調した。

■核兵器禁止条約への参加を国民的な議論にしていこうと、平和首長会議に参加する1700を超える地方都市から政府に働きかけること、ヒバクシャ国際署名の取り組み、SNSなどを活用して核兵器禁止条約の意義を広めることも重要だと指摘した。

■昨年122カ国が核兵器禁止条約に賛成したが、条約に署名したのは59カ国で批准は13カ国だ。核兵器保有国が「核の傘」の下の国に圧力をかけている状況だが、それは核兵器保有国の危機感の表れでもある。日本・韓国・北朝鮮がそろって条約に参加すれば北東アジアの真の非核化につながる。日本政府が条約に向き合うようになるのかは私たちの運動次第だ。